

令和 8 年 6 月

今後の学校給食のあり方に関する 調査特別委員会会議録

1. 日 時： 令和 8 年 6 月 19 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 11 分
2. 場 所： 全員協議会室
3. 出席者： 【委 員】河村委員長、岡部副委員長、松崎(正)・山上・井福・大塚・
中村(真)・松崎(百)・中村(慎)・河野委員
【欠席委員】なし
【委員外議員】なし
【執 行 部】なし
【傍 聴 者】なし
【事 務 局】一瀬議会事務局長、生座本議事課係長
4. 協議内容： 1. 協議事項
(1) 今後のスケジュールと方向性について
5. 概 要：
(開会 午後 1 時 30 分)

○委員長（河村康之） 皆さん、こんにちは。ただいまから第 9 回今後の学校給食のあり方に関する調査特別委員会を始めさせていただきます。

まず初めに、先ほど本会議がございまして、そこで皆さんの意見をまとめまして、当委員会の中間報告をさせていただきました。ありがとうございました。また、その後、副委員長と共に堤市長のほうにも中間報告書を届けてまいりました。本日から、最終報告に向けて皆さんのいろんな意見をまとめていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

まず初めに、皆さんに 2 点確認をさせていただきたいことがございます。

今日、中間報告をしました。が、もともと当特別委員会の任期が今期いっぱいというか、来年の 3 月、4 月までということになっておりますが、途中委員会の中で早くできるのであれば早くしようということで、12 月には何とか最終報告をとっておりますが、その辺の確認で皆さん、最終報告は 12 月ということで異存ないでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

○委員長（河村康之） 分かりました。12 月本会議のときに最終報告を出すということで、皆さんに時間的な制約とかをかけますが、よろしくお願いいたします。

そして、二つ目ですけれども、この委員会で出た答えといいましょうか、提案に対して、本市に対してこの意見について、今後の学校給食をいつ始めていただきたいとかということを皆さんに確認したいと思います。

例えば、特別委員会で出た答えに対して、行政としても速やかにこのことを考えて給食に取り組んでもらいたいのか、長い期間をかけて、5 年、10 年かけてでもいいからこの給食委員会の要望に対しての実施を行っていただきたいかということの確認をさせていただきたいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。何か意見がございましたら。

○委員（山上高昭） 議会として結論を出すわけだから、執行部に対していついつまでにせよというのはなかなか言いにくいと思うので、可及的速やかにとかできるだけ早くというような表現でいいんじゃないですか。

○委員長（河村康之） ほかにございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○委員長（河村康之） できるだけ早く形にしていだきたいという旨の方向ということで進めさせていただこうと思っています。5年も10年もかけるんじゃないくて、早くということですね、分かりました。

では、内容のほうを詰めていきたいと思います。

まず、お配りしております資料のほうですけれども、まず今回、今後のスケジュールと方向性について、みんなで話していきたいと思います。

一番初めのスケジュール表をご覧になっていただけますか。これは、前回までの中間報告に向けて、こういう取組を行ってきましたということを書いております。令和7年12月4日から特別委員会が始まって、前回の6月19日の中間報告の取りまとめまで、特別委員会が開催されました。今後、皆さんの先ほどの意見のとおり、12月に最終報告をするということで考えれば、このようなスケジュールになるのではないかとということで、一応正副委員長で話し合って立ててみました。

ここで、前回の中間報告なんですけれども、5月の下旬ぐらいからどういうふうにしようかということ始めてきたんです。実際問題、中間報告をどうしようかということで、1か月ぐらい練り上げて最終報告を今日しましたけれども、それを考えると、12月に最終報告を行うのであれば、11月の遅くとも中旬までには最終報告の内容をあらかじめほぼ決めておかないといけないということになりますので、それを考えたら11月の頭ぐらいには全調査を終えて、これから煮詰めていくよということで進めていく方向になりますので、少しタイトになると思いますが、その辺をどうぞよろしくお願いいたします。

この表の中で、第3期、第4期に黒丸をつけていますが、この黒丸のときぐらいに特別委員会があるのかなという仮定でつけさせていただいております。ですから、11月は丸々最終報告についてのまとめになりますので、それまでに意見の調整とか調査を行うと考えていただければと思っています。

それで、今後、最終報告に向けて、どのような形で調査を行っていくかということを皆さんからご意見をいただこうと思っておりますが、皆さんの中でぜひ最終報告に向けてこのような調査を行っていくべきだとか、これは必要だというご意見がございましたら、お聞かせいただきたいと思います。皆さんのほうでどうでしょうか。こういう調査、こういうところを調べるべきだというご意見はございませんか。

○委員（中村慎一郎） 以前言いましたように、給食センターだったり、あとは今の事業者のところにヒアリング調査に行くとか、そういったところかなと思いますが。

○委員長（河村康之） 前後しました。2枚目のこの表を皆さん、もう一回確認していただいていいですか。

この辺の委員会が始まったときに、執行部のほうから学校給食に関する運営方法について、直営の方法と委託の方法という形で資料をつくっていただきました。当然、中にはメリットもあればデメリットもあるよということでございます。

簡単に説明しますと、まず一番上、直営の自校方式ですけれども、当然各学校、中学校の校庭もしくはどこかに給食場を造って、そこで運営をしていくということでございます。しかし、先ほど皆さんの中から、できるだけ早く学校給食を子どもたちに提供というご意見をいただきました。それを考えると、今の学校の中で給食場を造る場所があるのかとか、校庭の端のほうに給食場を造らざるを得

ないということを考えると、なかなか自校方式での給食は厳しいものがあるのではないかと思います。

その下の親子方式、これも同じく中学校の中に給食場を造って、給食場が造れないところの学校の分も作って配送するというのが親子方式であります。執行部からの回答の中で、この親子方式というのは、給食場になりますので、造る場所がどうしても準工業地帯でなければその準備ができないということでございました。それを考えると、親子方式ができる学校というのは御陵中学校だけになります。御陵中学校で、3,000人の中学校の給食が食缶方式なりでできるかということになると、なかなかこの親子方式も大変難しいものがあると思っています。

今度その下のセンター方式、これは本市独自で給食センターを造って、そこで各学校に給食を持っていくということです。これが食缶なのか弁当なのかは別として、そうなったときに当然これも準工業地帯の場所でなければこの工場が大野城市ではできませんので、そう考えると、仲畑、畑詰、御笠川周辺でしか工場ができないということになりますので、これも物理的な問題とか、当然用地の購入とかを考えたときに、なかなか本市独自のセンター方式の工場を造るのも難しいのではないかなと思います。

その下、委託方式の全員制のランチ給食方式、これが今中学校で行っている、はたなかさんですかね、そちらのほうで行っている弁当をお願いして全中学生徒にお持ちするという方式であります。これは、数的な問題があるかもしれませんが、できる可能性は十分あります。これが一つ。

もう一つ、下のほうの全員制の食缶方式であります。これは、本市独自でなくて、市外の給食センターのほうにお願いをして、そこから食缶方式の給食を各学校に運んでもらう形になりますので、恐らく本市として、今後速やかに中学生の子どもたちの給食を進めるとなると、先ほど言いました委託型の全員制ランチ方式か、全員制の食缶方式、この2択になるんじゃないかなと思います。

その方向で、今後皆さんが進めていく方向といいましょうか、調査する内容について、皆さんのご意見をいただければと思いますが、どうぞお願いいたします。何かございますか。

○委員（松崎百合子） できるだけ速やかに全員制給食に移行してもらいたいというのが皆さんの合意でありますので、そのためには、短期的には委託方式で、特に食缶方式が望ましいと思うんですけども、中長期的には子どもたちに最高の給食を提供したいということで、直営式の自校式なりセンター式なりを検討してもらいたいということで、最終意見に盛り込めたら私はいいと思います。

○委員長（河村康之） 例えば、本委員会では12月に最終報告を出して、食缶方式なのかそういう形をやりましょうと。ただ、できたら本市独自のセンターなりを造ってということになりますと、二度手間という形になるけれどもいいんですかね。本市独自のセンターができたらずり替えてくださいということですかね。

○委員（松崎百合子） 委託式であれば、すぐ一、二年中にも移行可能だと思うんですね。それをしながら、子どもたちに最高の給食、小学校のような給食を届けるために、自校方式、センター方式を追求してもらいたいというような意見を出すということ。

○委員長（河村康之） 何年か後、10年なのか20年なのか分かりませんが、そのぐらいには本市として独自のということですかね。

○委員（松崎百合子） そうですね。

○委員長（河村康之） 分かりました。

皆さんのほうから、ほかにご意見ございませんか。

○委員（山上高昭） 意見じゃなくて確認なんですけれども、これは直営で委託になっていますけれども、小学校も全部委託じゃないですかね。

○委員長（河村康之） 基本的には委託だけれども、自校式というのは自分の学校で作っているよと

いうことで、委託を頼んでということですので、直営だけれども委託という、親子も当然委託と。

○委員（山上高昭） 確認ですけれども、要は建物をどこが持っているかというような考え方ということですね。

○委員長（河村康之） そうです、はい。

○委員（山上高昭） 分かりました、所有がということですね。

○委員長（河村康之） そうです、運営は委託になると思います。

○委員（松崎百合子） 一応直営で、調理を委託しているという形ですよ、小学校は。

○委員長（河村康之） 調理は業者さんに委託をしていますね。で、運営は大野城市でやっているということです。考え方は山上委員の考え方で。もう一緒です。

○委員（山上高昭） その言葉の定義を。直営じゃないのになというところだけです。

○委員長（河村康之） 両方ともそのとおりでございます。また何か皆さんのほうで、例えばこういう運営であれば、こういう調査を行うべきだというご意見がございましたら、どうぞ皆さんのほうから。

○委員（河野敏生） 最終報告にもし盛り込んでもらえるなら、自分は日本一の給食を大野城市には目指してほしいなと思うんです。ただ、お金がすごくかかるとか、時間がかかるといのはあると思いますので、今すぐにといいわけではないんですが、例えば糸島の志摩中学校は、全員ランチルームでご飯を食べるんですね。行ったことがなくて、話にしか聞いたことがないので、一回見てみたいなど。でも、それは、きっと土地がいっぱい余っとるんやろうなとか思うので、それがなかなかできるとは思わないんですが、いつかできたらいいなと思います。

だけれども、今回は速やかにということですので、自分が思っているのは、8年前に那珂川北中学校に勤務した際に、人用のエレベーターで食缶とかを持って上がっていて、それが大野城市ではできないと言われていたので、何でできないのかなと。那珂川北中学校が今でもそんなことをしているなら、何かルールの解釈の仕方とか、そんなのがあるなら教えていただきたいと思うし、当時はすごく準備が子どもたちは早かった、それは給食委員会の取組なんです。それから、残食指導なんかほぼしたことがなかったんです。それは給食がおいしかったからなんです。今でももしそうなら一見の価値はあるなと思って、その辺を。那珂川北中学校がそうでした。なので、そんなのも調べられたらなと思いますけれども。

○委員長（河村康之） 河野委員、調査するのであれば、那珂川中学校はたしか食缶方式……。

○委員（河野敏生） 食缶方式です。

○委員長（河村康之） 外部から委託で持ってきてもらっていると。で、エレベーターのある学校もあれば、ない学校もあるけれども、全校かどうか分かりませんよ。食事用のエレベーターじゃないけれども運営しているその那珂川の中学校なりにお話を聞くか、先方からお話に来てもらうということはどうかということですね。分かりました。

ほかは。

○委員（中村慎一郎） 河野委員と関連するんですけれども、委託のほうで工事改修費でエレベーターが入っているんですけれども、知り合いの春日市議と筑紫野市議に聞いたところ、春日市が秋から食缶方式に変わるという話なんですけれども、エレベーターの予算はつけていないという話を聞いておりまして、また、筑紫野市も以前はエレベーターを使っていたらしいんですけれども、事故があったからエレベーターはもう使わなくなったという話も聞いておりますので、近隣市のエレベーターの設置の有無とかというのも一度確認してもいいのかなと思います。

○委員長（河村康之） 那珂川市と同じように、春日市も給食専用のエレベーターじゃないエレベーターで食缶の上下をしているので、そこもということですかね。カートか何かですか。

○委員（河野敏生） 手でも持って上がっているんです。

○委員長（河村康之） ああ、手で持って上がっていると。そういうことも含めて、那珂川市とか春日市の現状食缶方式をやっている学校を見に行くか、調査をしようということです。

ほかに何かございますか、皆さんのご意見。

○委員（井福大昌） 以前も提案させていただいたとおり、国連の勧告を批准しまして、子どもの人権を守るために直接子どもの意見を必ず政策に取り入れなさいというのが、多分条例でも入れられていますので、前にも提案したとおり、小郡市とかはもう委員会の委員に特別子ども委員というのを入れたりしているんですが、そこまでするとなかなかハードルが高いでしょうから、参考人の招致ということで、現役の子どもたちを委員会に呼んで、あんまり堅苦しくしても発言しにくいでしょうから、柔らかい感じで、ざっくばらんに語り合うみたいな感じで、一度参考人として現役の子たちを呼べたらなと思っています。

○委員長（河村康之） 恐らく教育委員会、学校の校長会とかいろんなハードルがあると思いますが、参考人と言うといいイメージがしないので、お話しみたいなの、そういう形ですかね。そういうので、当事者の意見を聞いてもどうかということです。分かりました。

ほか、皆さんございませんか。

○委員（岡部かおり） 今後の方向性のためにも、先ほど言ったほかの自治体のやり方などを、筑紫地区5市ばらばらなので、例えば先ほど出てきた春日市はランチ給食から食缶方式になったので、なぜそうなったのか、プロセスを自治体の担当課などから聞くとか、そういうこともやってみてはと思います。

そして、先ほど井福委員も言われましたけれども、子どもの意見を聞くというと、委員長が先ほど言ったスケジュールを見ながら話すと、結局、10月ぐらいまでには骨子をしっかりと、もうこういうふうな形でやりますという感じで、12月が最終報告だったら11月にまとめるでしょう。そしたら、どうしても現地視察とかは7月、8月で動かないといけないと思うんですね。9月は定例会なので。

7月、8月となると、もう子どもたちも夏休みになるので、どうしても工場をとなると夏休み期間は給食がストップしているので、そうやって井福委員が言われたように、子どもたちの意見も聞くというのは夏休み中にはできるんじゃないかなと思いますし、自治体であればスケジュールの調整が難しいと思いますけれども、いろんな筑紫地区の自治体のやり方とか、どうしてそういうふうになったのかというのを聞くのも、少し手じゃないかなと思います。

○委員長（河村康之） ありがとうございます。

どういう給食から今の給食に変わったか、経緯について、各自治体からお話を聞くと。例えば、太宰府が変わったとか、春日市が夏から変わるんですかね。那珂川市はもう何十年も前からやっていると。そういう例を聞きながらということ。なぜ変わったのか、変わったなりの理由があると思いますけれども、そういうのも聞いたかどうかということでもあります。

皆さんのほうは、何かありますか。

前後するんですけれども、3枚目のこの資料、以前の分ですけれども、この真ん中のほうに、小学校と中学校の課題を入れています。当然、この課題を潰していくことも一つの方法でございますので、これも見ながら。

例えば、小学校であれば教員の負担軽減だとか、そういうのも見たほうがいいのか、どうなっているかとか、また、中学校であれば栄養の偏りとかがありますけれども、これは全員給食になると恐らく栄養の偏りとか欠食のリスクとかは多分なくなってくるんじゃないかなと思いますので、当然考えなくていい課題も出てくると思いますし、これ以外でまた新たな課題、皆さんのほうで思いつくようなことがあれば出していただいて、その課題をクリアするには何を調べればいいのかということのご意

見も含めていただければと思います。

○委員（山上高昭） この間も言ったんですけれども、栄養のバランスといっても結局提供しかしてないんですよね。これが非常に大きな問題じゃないかと思うんです。だから小学校のを今から変えることは難しいと思うんですけれども、中学校もただ提供するだけじゃなくて、何か手が打てないかなと。そうしないと、やる意味がないような気もするんですね。栄養のバランスとかを考えれば。だからそこら辺を、提供だけじゃない、一步踏み込んだ形が必要じゃないかなと思います。

○委員長（河村康之） 小学校で、1人分の栄養なりカロリーなりを決めて配膳しますけれども、食べる子、食べない子、いっぱい食べる子、残す子といいますけれども、そういうのは果たしてどうかということでしょう。となると、栄養教諭の指導といいましょうか、今小学校でもやっていると思うんですけれども、果たしてそれでいいのかということも当然あるだろうし、中学校に関しては恐らく栄養教諭、市役所にしか多分いないんでしょうね、各学校には配置されていないと思いますから、そういうことも含めて、今後の最終報告なりに入れていくことも当然出てくるかなと思うし、栄養教諭を入れている学校の給食が今どういうふうになっているのか、残食がどうなっているのかとか、栄養の偏り、摂取の偏りがあるのかどうかも含めて調査の内容でいいかなと思っております。

あと、皆さんのほうから何かございますか。何でも言ってください。この際、何でもどんどん。

○委員（松崎正和） 以前も言ったと思うんですけれども、あくまでも運営していくのは執行部ですね。議会というのは、こういうふうにしてはどうかという意見をそちらに渡す、それが仕事だと思う。ここでこうしようという結論は出せないと思うんですよね。

だから、今まで出てきた意見を、議会としてはこういう形だということでもいいんじゃないですか。何かいろいろ細かいことまで言っていますけれども、そういうことはほとんど今執行部のほうは同時に研究しているわけですよ、何がいいとかね。私たちより恐らく進んでやっていますでしょう。だから、あんまり事細かなことまでする必要はないんじゃないかなと思いますよ。

○委員長（河村康之） ありがとうございます。当然、執行部は動いていると思います。こうなったらどうしようとか、いろんな策を考えていると思いますけれども、しかし議会としてこの特別委員会を設けさせていただきました。限られた時間の中で、できる限りのことは行っていきたいと思っています。その意見をしっかり議会として出して、当然執行部は執行部でもっといろんな意見が出てきているのかもしれませんが、議会としては方向性としていろんな提案なり要望なり、これをやってくれとかそこまで言えませんが、そのための調査は限られた時間の中でやっていきたいなと私は思っております。よろしくお願いします。

皆さん、ほか、ございませんか。いろんな意見をもっと出していただいていいですよ。何を調べるとかですね。最終的な調査に向けての過程でも結構ですよ。さっき、松崎正和委員が言われたように、執行部にそこまで言わなくてもというかもしれませんが、付け加えたいとか、これは今後、調査の中でやってくれということでも結構でございます。今、井福委員から子どもたちの意見を聞いたかどうかというのもありましたし、逆に子どもたちに、例えば全員でランチ給食を食べてくれでもいいし、逆にどこかがやっている食缶の給食を配膳していただいて一回食べてくれと、当然そういうこともお願いと言いましょか、要望の中で入れることもできると思います。

当然、議会だけで言うてどうのこうのじゃありませんけれども、できるできないというのは当然執行部が考えていただけたらと思いますので、要望としては意見の中では出したほうが、よりリアルな回答が今後出てくると思いますので、皆さん、どうぞ何かございますか、あればと思いますけれども。

例えば、新たな課題とかございませんか。

○委員（大塚みどり） この3か月か4か月の中で方向性を確認するということは、生徒の人は非常に難しくなってくるんじゃないかなと思います。まず、1年生は入学したて、2年生は1年間ぐら

いで大体学校に慣れて、3年生ってもう責任がないんですよ。いわゆる、あと少しでも自分たちは卒業と。3年間の間で、保護者に聞いたら、そういうもののアンケートを取るとき、あと3か月で自分の子は卒業していくので、選ぶとき適当に選んでいるというか、もうこれぐらいでアンケートをしたという声も聞くので、生徒を選ぶのは1年ぐらい前からしておかないと、厳しいものがあるかなというのが感想です。

もう1点は、今までランチ給食をしているところは見たいなと。1回も見ることがないので、調理のところだけは比べるのに見たいなと思います。

もう1点は、食缶方式をやっているところを実際に見れたら、すごく比較できるのでいいということと、あとは皆さんが言っている他市が変えたときに何を重視して選んだのか、コストなのか、それとも松崎百合子委員が言ったように、2段階でエレベーターは後からつけようと、まずは食缶方式にしたとか、そこら辺の2点だけを見たいなというのが私の意見です。

○委員長（河村康之） 仮に見るとなると、例えば食缶でやっている那珂川市の中学校の子どもたちを見るのか、執行部にどういうふうにしてこうなったかを聞くのか、それも両方含めてということですか。なるほど、分かりました。

当然、相手さんがあることなので、許可を得てからとなりますから、それ以外、今ランチ給食を行っているはたなかさんの現場であったり、給食センターを行っているところありますね、大本の会社さんとか、そういうところに聞きに行くとか、そういうのも含めて皆さんどうですか、ご意見は。

○委員（山上高昭） まさに、今委員長が言われたようなところをやっていくべきだと思います。

○委員長（河村康之） なかなかタイトなので、全部が全部見れるか分かりませんが、幾つか絞るような形になると思いますけれども。

ほか、皆さん何かございますか。調査の中で、これはぜひ調べるべきだということはあるですか。

○委員（大塚みどり） 筑紫野市は、実は以前勤めていたので、センター方式を何回も見ているんですよ、調理のほうはですね。だから、できればそれよりも新しい、最新を。どこかしているのを見るならば、その後でどう違うのかが見たいなと。

○委員長（河村康之） たしか筑紫野市は、自前のセンターでしたかね、やっていますかね、なるほど。どう違うか。自前のセンターと、外部の給食会社さんがやっているセンターの違いみたいなのところですね。分かりました。

今、いろんな意見がありましたけれども、最終報告を先ほどさせていただきましたが、まず、給食の提供の方法だったり、施設の整備、また運営体制についても調べていくべきだと思いますので、当然、中学校の現場がどうなのか、なぜそのようになったのかということ、また設備はどういうふうに、エレベーターがあるとかないとか含めてですね。あとは提供の方法、これはまだ実際に現場を見ないと分からないと思いますが、これがどういうふうになっているのかということも含めて見ようと思います。

また、山上委員が言った、現在使っている給食会社さんとか、そういうことも調べていくようなことになるとと思いますが、初めに言いましたが、どうしても12月での報告となりますと非常にタイトです。資料1のこの表のところで、恐らく第3期、7、8、9月で回るような形かなと。できれば10月の頭ぐらいまでの間で回らないといけないと思っています。これに黒丸を書いていますけれども、一応予定では五、六回ぐらいになります。逆に、これが増える分はいいですよ、現場のほう見る形で進めていくような方向でよろしいですかね。で、最終報告を11月ぐらいから詰めていくという形で。

ほか、何かありませんか。今までの中で提案は、まだ発言していなかったけれども、こういう課題が新たにあるんじゃないかとか、これは何とかすべきじゃないかなというのがありましたら、皆さんの中からご意見をとと思いますが、よろしいですか。

○委員（松崎百合子） 私は、今自校式をやっている小学校のほうから、この報告の中で自由度が低いと……。

○委員長（河村康之） 自由度、選択ですか。

○委員（松崎百合子） 自由度、一番下の横断的な整理で、固定メニューのために低いと言われてはいますが、毎日多様なメニュー、世界中のそして国内の伝統的な行事食とか、そういう本当に豊かなメニューについて栄養士さんなりから、どんなふうにメニューを作ったり食育をされているのか、食品の購入をこのようにされているとかですね。

小学校のような給食が、もっと理想はオーガニック給食とかいろいろありますけれども、現状の中で実際大野城市でされている給食について、将来に向けて、ここで実際に小学校の現場から実情を伺っておきたいなと思います。

○委員長（河村康之） 小学校の課題の中の一番下の、「食事メニューの自由度が低い」と、このことですかね。

○委員（松崎百合子） そうですね。

○委員長（河村康之） これはたしか、メニューがこれしかないよということの自由度なのかなと。例えば、AとBがあって選べるとかいうので自由度があるとか。明確に中学校のランチ給食であれば、今日はランチを食べよう、あしたはお母さんの弁当を食べようというふうに選べるということに対しての自由度ということですから。

どこかの学校でAランチとBランチが選べるとか、河野委員が言われたように、そういう学校があれば確かに調べてもいいかもしれませんが、多分なかなか見当たらないかなと思いますが。そういうのも確かに一つだと思いますけれども、なかなか難しいと。

○委員（松崎百合子） あるんです。小学校の……。

○委員（山上高昭） 今、あるということだったから。結局また戻ってしまうんですけども、栄養バランスはあくまで提供なので、幾つかメニューがあればこれは全部食べれるというような、そういう選択にできるという方法もですね。今、あるというお話だったので、そういうのも見てみたいなという気はします。

○委員（松崎百合子） 今、小学校でされているのは、「えらぼう給食」ということで、カレーのトッピングを選ぼうということ。これは6月のメニューですけども、そういうことでメンチカツとかポークカレーとか、そういうことで選べる給食というのも取り入れられているんです。

○委員長（河村康之） それはカレーのトッピング、何かフィッシュ・アンド・ビーフみたいな、そういう形なんでしょうか。

○委員（松崎百合子） そうですね、「えらぼう給食」も取り入れられていますし、みんなが食べるように栄養士さんたちがいかに取組をされているとか、安全なよい食材を選ぶためにされている努力というか実践というか、そういうものを私たちが知る必要があるんじゃないかと思います。

○委員長（河村康之） これは、山上委員が言われた食べ残さないとか食べれるということにつながりますね。選べるのであれば、残さないでという。

○委員（山上高昭） トッピングの話なので、私のと違うんじゃないかな。

○委員長（河村康之） ほかほか、その辺の情報は私は分からないんですけども、そういうのがあるのであれば。

○委員（大塚みどり） 私は中間報告のときに言ったと思うんですけども、魚料理のときに自分はパンがいいとかご飯がいいとか選べるのもあるし、栄養も考えたハンバーグと魚があって自分はこっちを選ぶというのが、今そういうのが給食の工夫で。それが大野城市の中学校の場合は、選択で弁当、ランチ給食、パンというふうにしていたので、ちょうど活かされるかなというのがあるので。遠いか

もしれないから資料だけでも取り寄せるとか、その辺りは委員会に提供できるかなと。

○委員長（河村康之） 確認。それはおかずじゃなくて、主食がパンかご飯か選べるということですか。

○委員（大塚みどり） いろいろです。

○委員長（河村康之） おかずもということ、なるほどね。分かりました。ありがとうございます。

○委員（中村慎一郎） 今の太塚委員に対する質問なんですけれども、それというのは1か月のうちの一日、二日というわけじゃなくて、もうほぼ毎日選べるという。

○委員（大塚みどり） 市によって違うんですけれども、1週間に1回とか。あとは、例えば国際的な中国料理なんか選んで。とにかく、栄養は管理栄養士が考えて、中華がいいかそれともフランスか、そういうふうを考えている時代が今来ているので、遠くて視察に行けなかったら、そういうことをやっていると調べるのも。せっかく特別委員会でするので、よりいいものを提供できたらいいなと私は思っています。

○委員長（河村康之） ありがとうございます。実際にそういうところがあるのであれば、たしかに参考にはなと思います。私もそういうのがあることを知らなかったものですから、ぜひ可能であればそれも含めて、データだけもらうとか、お話だけ聞くとかになると思いますが。実際問題、それを食缶方式の委託業者ができるかできないかは別として、そういうご意見もあるので調べてみればということでございました。

あとは何かございますか、皆さんのほうから。

○委員（岡部かおり） 少しずれるかもしれないんですけれども、最終報告に向けて要望と先ほど委員長が言われましたけれども、全員制ランチ給食にした場合とか打合せで言っていたんですが、12月のクリスマスランチは、みんなお弁当の子も結構クリスマスランチだけは食べるという感じだったので、給食委員会からという感じの要望として、12月のクリスマスランチはみんな全員、アレルギーの対象がありますけれども、みんなランチを食べてみましょうという感じで要望をできたらなと思うんですけれども、弁当箱とかが足りないのかな、それでもできるんですか。

○委員長（河村康之） 今頼んでいる業者さんは、全校分はあるということ、継続的にはどうか分かりませんが、単発的であればそれは可能というお話は聞いています。

岡部委員が言うのは、一度全員に今のランチ給食、全員なのか学校単位なのか分かりませんが、食べてもらうという形を行ってはどうかということですかね。なるほど。

○委員（河野敏生） 今の質問ですが、クリスマス献立、ランチが人気なのは、自分の教員の経験上、ケーキがついとるけんというのが、それですか。

○委員（岡部かおり） だと思います。教育委員会からも聞くと、クリスマスランチがすごく多いから、いつもよりも事前に申し込んでくださいというな感じで。ケーキとかオムライスとか、みんなに食べてもらおうというのがあるみたいで。

○委員長（河村康之） それはランチ給食だけですか。小学校のじゃなくて、中学校のランチ給食がそういう形だと。私は分からないので。

○委員（河野敏生） 筑紫野市でも那珂川市でも、全員制の給食のときのクリスマスは華やかで、ケーキがついていました。教員の最初の頃はなかったけれども、だんだんケーキがつくようになって、そのうち選択、イチゴショートがいいか、チーズケーキがいいかというふうにもなってきました。以上です。

○委員長（河村康之） 整理をいいですか。岡部委員が言われているのは、ランチ給食を全員に、河野委員が言っているのは食缶方式のときにケーキがつくよということなんですか、どうなんですか。

○委員（河野敏生） ついていましたという報告とってください。

○委員長（河村康之） ありがとうございます。価格的な問題も多分出てくるとは思います、取りあえずそれは別として、今、食べたことのない子どもたちに広くということによろしいですかね。なるほど、分かりました。

○委員（岡部かおり） どうしても女の子がランチ給食にすると、もう食べきらんとかいろいろあって、自分1人だけでは頼みにくいとかいう感じで、女の子が頼みにくいという声を聞いたんですよ。だから、みんながランチ給食を食べる日をつくると、自動的に食べるのかなと思います。

○委員長（河村康之） 全員と言いましたが、1校単独か全員か分かりませんが、試験的といいたしうか、ランチ給食を頼んでいる半分ぐらいの子どもたちだけじゃなくて、全員がその日に食べましようというということですか。

それを言うんであれば、逆に今中学校はランチしかやっていませんから、小学校のような食缶方式の給食も試験的にどこかの学校で食べてもいいんじゃないかなと、同じ考え方かなと思うので。果たしてそれができるかどうかは別ですよ、給食会社さんがそれをやってくれるかどうかは別として、今年の12月のクリスマスは多分間に合わないと思いますが、今後、検討において、そういうことも考えてみてはどうかという意見を付け加えるような形ということですね。分かりました。

皆さん、ほかに何かありませんか。今後、調査していく上で行うべきこと。

先ほど、食缶方式だとか、ランチから変わったところの学校関係を見に行くということ。また、山上委員からはたなかですかね、ランチ給食を作っている業者さんへお話を聞くなり見に行つてはどうかということがありましたが、まずその辺の時期的な問題もありますし、当然向こうの受入れもあると思いますが、その辺を今後進めていってということによろしいですか。

〔「異議なし」の声あり〕

○委員長（河村康之） 分かりました。

その方向で今後、7月以降になると思いますが、スケジュール的な、また先方も含めてお話をさせていただきたいと思います。

ほか、皆さんから何かございますか。今後の方向性という形で。

〔「なし」の声あり〕

○委員長（河村康之） では、その方向で進めてまいりますので、また追って日程等の調整はさせていただきます。

以上で、第9回の今後の学校給食のあり方に関する調査特別委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

（閉会 午後2時11分）